
バカとテストと円卓の騎士

れおん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと円卓の騎士

【Nコード】

N1222W

【作者名】

れおん

【あらすじ】

バカとテストと召喚獣の二次小説です
珍しい主人公が教師のタイプです

主人公は枢木スザク

でもブリタニアは関係ありません

コードギアスはちよこちよコネタではいります

でもコードギアスのスザクとは別人です

以上の事を踏まえた上でお読みください

プロローグ（前書き）

久しぶりの新作です

今までは完結まで書ききった事はないけれど今回は完結目指して頑張ります

プロローグ

ここは文月学園

全国的に有名な試験校です

そんな場所に今一人の青年がやってきた

「ここか。とりあえず学園町のところに行かないと行けないな。」
青年は一人歩き出した

学園長SIDE

「西村先生、確か今日だね、新しい生徒指導の教師が来るのは。」
威厳のある机に手を置いているのがこの文月学園の学園長藤堂カヲル
「まだ約束の時間には早いですよ。確か士官学校を主席で卒業した
そうですね。」

藤堂カヲルのそばにいる体格のよい教師西村宗一彼はこの学園の生徒指導の担当。

趣味がトライアスロンということもあって生徒たちの間では鉄人と呼ばれている。

「そうさよ。実はちょっとした知り合いでね。声だけかけてみたらなんとOKをくれたのさ。」

西村宗一は「エリート」の道を捨てて教師になろうと思ったその青年の考えがよくわからない」とでも言いたげな顔をしていた。

そのとき学園長質の扉をノックする音が聞こえた

「誰さね？」

「柘木です。本日よりこの学園で生徒指導を担当することになった。」

「入っておくれ」

SIDE OUT

鉄人SIDE

「枢木です。本日よりこの学園で生徒指導を担当することになった。」

「入っておくれ」

学園長がそういった後に入ってきたのは好青年という感じの青年だった

「よくきてくれたね。こっちがあんたの指導を担当してくれる西村宗一先生だよ。」

学園長の紹介の後青年はこっちを向いて挨拶をしてきた

「枢木スザクです。これからよろしくお願いします。」

「西村宗一だ。よろしく。早速だがひとつ聞いてもいいか？」

「どうぞ」

「君はなぜ士官学校主席で卒業したのに文月学園の教師になろうと思ったんだ？」

「自分はこの世界を変えて行きたいんです。たとえ士官学校を主席で卒業しても一兵卒でしかない自分に世界を変える力なんてありません。また多少勉強ができてでも戦うことしか知らない自分には政治の世界でやっていくこともできません。しかし子供たちには無限の可能性があります。自分はその無限の可能性にかけてみたいんです。」

「なるほどな。わかった。俺も君が一人前の教師になれるように全力で指導に当たろう。よろしくな」

俺は自分の右手を差し出した

「イエス、ユア、ハインス」

彼もまた俺の手を握り返してきた

鉄人SIDE OUT

ここに今文月学園最強の師弟が誕生した瞬間だった。

主人公設定

くろのあ 枢木 すゐく 朱雀

日本人

20歳（原作開始時）

容姿

コードギアスのスザクを少し大人にした感じ

本作の主人公で文月学園の教師

生徒指導担当

原作開始の2年前に文月学園に赴任

原作開始時はAクラスの副担任もしている

来歴

士官学校を主席で卒業している

戦闘力は鉄人の本気より少し弱い（大体8・5割くらい）

基本的に恋愛をしたことがない為恋愛には鈍感

また他人の他人に対する好意は簡単に見破る

原作開始時の二つ名は白き死神

第一問（前書き）

今回はDクラス戦終了まで書かせて頂きます

第一問

シェイクスピアの世界4大悲劇を答えなさい。

姫路瑞樹の答え

「ハムレット」「マクベス」「リア王」「オセロ」

教師のコメント

さすがですね。今後その調子でがんばってください。

土屋康太の答え

「財布紛失」「カメラ破損」「決定的瞬間に目にゴミ」「ハードデ

イスク大破」

教師のコメント

最後のは先生も泣きたくなります。

吉井明久の答え

「ハムレット」「マクベス」「リア王」「家での父の扱い」

教師のコメント

あなたのお父さんは家出どんな扱いを受けているんですか？

吉井明久SIDE

桜舞う4月僕は文月学園で2度目の春を迎えた

「遅いぞ吉井！！」

校門前で趣味がトライアスロンの通称鉄人こと生徒指導の西村宗一
が立っていた

「吉井君また遅刻かい？」

そして横から双壁をなすもう一人の生徒指導の黒木スザク先生が来た

「おはようございます。鉄人と黒木先生」

「おい吉井今俺のことを鉄人って言っただろう？…まあいいこれを
受け取れ。」

そういうと鉄人は封筒を僕に渡してきた。

「振り分け試験の結果ですか？」

「その通りだ。空けろ。お前で最後だ。」

僕が空けようとするのと枢木先生が僕に話しかけてきた

「僕は昨年君を見てきてもしかすると君はすごい馬鹿なんじゃないかと思っていたんだよ」

「それは心外ですね。」

僕はそういいながら封筒を開けていった

「吉井気味への疑問はすべてなくなった。」

封筒をあけ切るとそこに書いてあったクラスは

「「吉井君（お前）は馬鹿だ」」

吉井明久Fクラス

吉井明久SIDE OUT

それから配布されていた資料に目を通しているうちに気づけば昼休みになっていた

コンコン

誰かがノックしている

「どうぞ」

そう言うのと学年主任の高橋先生が入って来た

「実はFクラスがDクラス相手に試召戦争を申し込んだらしいんですよ。」

いきなりだな！！

「分かりました。では自分も今から行きます」

「スザク来てくれたか。とりあえず戦死者を補修質に連れてきてくれ予想以上に多いせいで手が足りんのだ。」

「わかりました」

僕は先頭が行われている場所に足を運んだ

「確かにこれはすごいな」

そこは自爆覚悟で戦いに行くFクラスと多対一に苦しむDクラスの姿があった

「戦死者は補習だ!!」

僕は4人の生徒をまとめて補習室に連れて行ったあと見渡しの良い場所で試召戦争の全体を見ていた

「なるほどね。下校する生徒にまぎれて不意打ちか。卑怯ではあるけどこれが戦争だからね。そういう面ではさすがだな坂本も。」

今試召戦争の流れは完全にFクラスに向いている

戦場においての流れって言うものは戦力に対差がない場合には非常に効果的だしね

ここから先は切り札（姫路）を出して終わりかな？

結果から言うと僕の予想どうり切り札（姫路）の投入で戦争はあっけなく終了した

「僕は今からが本業か。」

戦死者の補習は西村先生に任せて僕は壊れたものの点検可能ならば修繕という仕事が残っていた。

面倒だけどこれも仕事だからやるしかない

全て確認し終わったから僕は今自分の生徒指導室兼マイホームに戻ってきている

僕は現在天涯孤独で今までも米軍の士官学校にいたから寮はあっても自分の家は無かった

そのことを学園長に話したら何故か部屋をもらえた上に宿泊許可ま

で取り付けてくれた

おかげさまで僕は遅刻は一度もない
ただ難点は隠し部屋だからロッカーの扉から出入りしなくちゃいけない
って事くらいかな

ついでに学園の警備も僕の仕事のひとつになっているけれどこの話は
また今度にしよう

第一問（後書き）

感想よろしくお願いします

またこうしてほしいなどのがんばうがあれば聞かせて頂きたいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1222w/>

バカとテストと円卓の騎士

2011年10月9日01時03分発行